

森林セラピー通信
森のたより
(一社)飯南町観光協会
☎76-9050

救命救急講習を開催

3月11日に、町内のガイド団体を対象に救命救急講習を行いました。雲南消防署の方を講師に招き、飯南町で起こりうる状況を想定した講習に、参加者も真剣でした。また、このご時世、人工呼吸ができない場合も想定して、胸骨圧迫をひたすらすることに。参加者一同ヘトヘトになりました。野外での事故では、初動が何より肝心です。具体的にイメージしながら訓練することで助かる命もあります。事故は起こらないことが一番ですが、もしもの時は実際の現場で活きることを願います。



セラピーロードを整備

3月25日に、セラピーロードを整備しました。一部にはまだ雪が残るロードですが、秋から冬にかけての落ち葉や、雪の影響で折れた枝などが散らばっています。



今回は一日かけて、約2・3キロメートル(全ロード)の整備。午後からは暖かい日差しも降り注ぎ、落ち葉を取り除いたロードに日が当たると、ウッドチップのいい香りが広がりました。また、森の中ではヤマシャクヤクの芽やミヤマカタバミ、アオイスミレやオウレンなど、キュートな花々が咲き始め、いよいよ春がすぐそこまで来ていることを実感しました。



文化を感じるまちへ **飯南町文化協会**

事務局(教育委員会内) ☎76・3944

飯南町の文化振興を願って文化交流会を開催

3月5日(日)に、赤名農村環境改善センターで「文化交流会」を2年ぶりに開催しました。飯南町文化協会加盟団体の成果発表の場であり、舞台スタッフ研修の実践の場でもある交流会には、文化協会に加盟する9団体、約50人が参加。加盟団体のステージ発表や作品の展示があり、大いに盛り上がりました。新型コロナウイルス感染症拡大前は、食べ物を囲み和気あいあいと開催していたため、当手を振り返り残念そうな表情を浮かべた参加者もいました。今回の交流会は、舞台スタッフ研修会の最終演習も兼ねていたため、ステージ発表の際には、研修生の力で舞台の照明や音響などが見事に調和。4人の研修生には、今回の学びを今後にかかしてもらいたいです。新型コロナウイルス感染症のため十分な活動ができない状況で、以前に比べて参加団体も少ない交流会となりましたが、久々の会員同士の再会に笑顔あふれる交流会となりました。



パイプレイヤーズによる演奏



舞台スタッフ研修生によるあいさつ

短歌

頓原公民館短歌教室

三月詠草



馴れている積りで過ごすこの寒波肌身に凍みいる八十路を歩む
安部 徳則

目の前で繰り上げ号砲無念なり倒れ込み泣く九区走者よ
石川 隆

春待たず風花の空に逝きし友八十路の花も未だ咲かさず
景山サチ子

希に観る朝日に光る小枝にも真綿をかむり眩しさ誘う
景山 稔

冬枯れの雪積む山の夕焼けに寒さも吹つ飛ぶほどの絶景
景山 牧栄

黒豆を炊きつつ娘と在りし日の煮豆好みし夫を偲びぬ
片岡 千鳥

年末に飾りし梅のふつりとつばみ膨らむ厨の窓辺
塩田美代子

音沙汰の途絶えし友の年賀状、もの忘れはお互い様と返信す
千葉トミエ

晴間みて雪の畑より持ち帰り鍋いっばいの大根を煮る
本間 啓美

いつの日も知人友人に支えられれ勇気蓄え幸せにいる
三上 朋子

粉雪が呼吸のやうに舞ひ降りて色なき盆地を白く染めたり
鳥田 勝信

今月の人権標語

「家族でつくる人権標語」優秀作品から

「ありがとう」
言って言われて
いい気持ち

志々小6年 小野田 楓さん
家族名 小野田花菜さん

標語に込められた想いをみんなで意識し、差別や偏見のない明るいまちづくりをめざしましょう。

すこやかに

3月届出分

新生児 届出人 地区
石飛 羽唯 完 多(頓原)
中山 美杏 高 樹(下赤名)
薬師寺咲良 良 樹(上赤名)
高橋いろは 利 英(野萱)

やすらかに

3月届出分

お名前 親族 地区
藤原 康子 稔 (都加賀)
吾郷 映子 浩 彦(角井)
三島 猛登 崇 暁(上赤名)
難波 幾子 健 治(上赤名)
酒井 保様 敦 夫(真木)
渡邊 春海 讓 文(小田)
薬師ミツ工様(87)正 登(上赤名)

今月の表紙

高校への坂道を笑顔で歩く二人の生徒。新入生の澤田和奏さん(右)と2年生の難波ちひろさん(左)です。異なる二人の制服。飯南高校は今年度から制服を変更しました。新入生と2、3年生で制服は異なりますが、生徒同士が多様性を認め合える学校を目指します。

